

うに郷通信

No.110
平成30年(2018)8月

発行：宇仁郷まちづくり協議会 (編集:情報部会)

会長就任挨拶

会長 稲木善英

協議会活動は、平成20年2月23日より始まりましたので、既に10年5ヶ月の歳月が流れたこととなります。「地域の核」と位置づけました宇仁小学校改築に約6年の歳月を要しましたが、宇仁郷まちづくり協議会の先を見越した指導と、校区皆様の絶大な協力と団結力で、新小学校を改築することができました。

現在でも、この核となる宇仁小学校を守り発展させていくことは、だれも総論賛成です。しかし、それを担保する事業推進の各論には、「活動を圧縮すべきだ」等のご意見も出てきている状況です。協議会の活動方針にある「少子高齢化の進展を踏まえ、故郷再生事業を推進し、地域が子育て支援と人口の流失防止と増加対策に取り組んでいく」を実践実施して行くことは、大変難しい課題になりますが、それを避けては地域を守れないことは、加西市などのデータより検証されています。

新執行部は、この難題を避けることなく「挑戦する姿勢」を堅持して参る所存ですが、何分未熟な私達でございます、これまで同様にご指導、ご鞭撻、ご協力をいただきますよう心よりお願い申し上げます、挨拶といたします。



宇仁郷まちづくり協議会平成30年度総会を開催

6月23日(土)八王子会館において宇仁郷まちづくり協議会平成30年度総会を開催しました。ご来賓の西村加西市長と大豊県議会議員の祝辞の後議案審議に移り、平成29年度事業報告・収支決算報告がされました。

今年度は役員改選の年であり、繁田俊彦選考委員長よりその選考結果の報告があり、会長に稲木善英さん、副会長に井上芳弘さんが新しく選任され満場一致で承認されました。新会長の就任挨拶に続き平成30年度の重点施策・事業および収支計画の審議に移り、全ての議案が承認されました。

なお、長きにわたり協議会の運営にご尽力された前会長の常峰八郎さんは顧問として、今後もアドバイスをいただくことになっています。

組織の変更として、油谷川ホテル再生プロジェクトが里山ふれあいの森部会に編入され、また地域主体型交通導入検討委員会が新たに立ち上がりました。

平成30年度の重点施策は、下記の5項目です。

1. 吉田省三^{せいぞう}記念文庫の開設
2. 地域主体型交通導入の取り組み
3. 特別指定区域、新規居住者区域の見直しと宇仁小学校旧運動場の再利用計画(前年度より継続)
4. 宇仁幼稚園の存続
5. Uターン、Iターン対象者の情報収集と情報発信(前年度より継続)

少子高齢化が進む中、加西市のそれぞれの地域では新たな課題やニーズが生まれています。地域ニーズ・課題にきめ細かく対応し、その実情や特性を踏まえた魅力ある地域をつくるため、住民自身の主体的な参画と協働による地域づくりの推進母体「加西ふるさと創造会議」の先進地域として、他地区の模範となるよう協議会の活動を推進することが期待されています。

(事務局)



環境学習を楽しみました

5月19日に里山ふれあいの森(八王子神社鏡山)で、親子や小学生を対象に環境学習会を開催しました。森の土の中に潜んでいる虫を掘り出して種類別、形や大きさなどの特徴を観察して、調査票を参考に分類しました。



結果は、環境の変化にとっても弱いもの=オオムカデ、ヤスデ、ザトウムシ、ジムカデ、リクガイ、コムカデ、イシノミの7種類、環境の変化に弱いもの=イシムカデ、シロアリ、ゴミムシ、甲虫(幼虫)、甲虫の5種類、環境の変化に強いもの=トビムシ、クモ、ダンゴムシ、アリの4種類、それぞれに基準点を計算して計100点満点で54点、比較的に良い方だという結果でした。

(里山ふれあいの森部会)

宇仁郷歴史資料館部会よりのお願い

宇仁郷歴史資料館部会では故吉田省三氏の蔵書の寄贈を受け、その整理のためボランティアで活動していただける方を募集しています。活動内容は下記の通りです。

場所：宇仁郷歴史資料館内(宇仁小学校体育館横)

<やっただく作業>

- ① 資料館の本に背ラベルを貼る作業
- ② 本の背ラベル、書籍名、発行所、著者をパソコンに入力する作業
(ただし、ご自分のパソコンを持参願います)

<日時>

ご都合の良い日を選択していただきます。

時間は午後1時から午後3時です。

※報酬は無償となります。

簡易な作業ですので、ご協力のほどお願いいたします。



(宇仁郷歴史資料館部会)

作業風景

宇仁郷歴史資料館だより ④-5 近・現在の宇仁郷

(7)「大政奉還」前後の混乱-1

日米修好条約調印(1858)の批判、安政の大獄(1858)、桜田門外の変(1860)で幕府の威信が著しく低下していく中で、西郷隆盛・坂本龍馬の工作で慶応2年(1867)に薩摩土佐・薩摩長州同盟が結ばれ倒幕体制が整っていきます。

舞台は京都だった慶応3年10月13日(1867)第15代将軍徳川慶喜は政権を朝廷に返上するため、40藩の重臣約50人を二条城二の丸御殿大広間に集め「いま、天下安寧のため政権を放棄する」と言い放ち、「疑念があるならば、後刻格別に謁見する」と加えました。10月15日土佐藩の尽力による「建白書」が天皇に奏上され「大政奉還」が成立しました。



西郷隆盛

徳川慶喜の本心は、①領地も金も人材も軍隊もない新政府に何ができるのかとの疑念。②内戦により国民の混乱や疲弊を避け国家の安寧を願った英断。の説があります。

開館日 第1・3日曜9時30分~12時

訂正とお詫び

宇仁郷通信 109号(7月号)の「泥田遊びたのしかったよ～」の記事において、田谷町井上和孝様所有の田んぼ…となっていますが正しくは小川和孝様所有の田んぼ…の間違いでした。紙面をおかりして訂正するとともに小川様にお詫び申し上げます。